

第1回三重の周産期医療体制あり方検討会における主な御意見

主な論点	論点に対する御意見
分娩取扱施設等の集約化	<ul style="list-style-type: none"> 今後、集約化は避けられず、周産期母子医療センターにおいても<u>リスクの低い分娩を受け入れられる体制整備</u>も含めた対応が必要
人手不足	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心なお産を行うためには<u>看護師や助産師等多くの人手</u>が必要 <u>人材確保</u>のための<u>支援</u>のあり方を検討する必要
新規開業、事業承継の困難さ	<ul style="list-style-type: none"> 出生数の減少等をふまえると、新規開業が困難であり、<u>既存施設の維持</u>のための<u>支援</u>が必要
行政からの <u>支援体制</u>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の診療所等に対して、夜間等に複数人体制がとれるような<u>人件費や運営費の支援</u>が必要 地域の診療所等の分娩の取り扱いが無くなった場合、<u>妊婦</u>に対する<u>アクセス支援</u>が必要

- 県内の周産期医療体制における多くの課題を指摘いただいた(人手不足、開業・承継の困難さ、経営環境の悪化等)。
- 出生数の減少や地域の診療所の減少等により、従来の医療提供体制の考え方や分娩取扱施設の役割のままでは、県内の周産期医療体制の維持は難しい。

周産期医療体制を検討する際の圏域の設定や分娩取扱施設の役割の見直しが必要
 これらをふまえ、将来を見据えた周産期医療体制の方向性を決定する必要